

2023年

1月12日[木]

18:30開場 19:00開演

上演時間：約80分予定 上演言語：日本語

チケット料金(全席指定)

一般	3,500円
ユース (25歳以下)	2,000円
18歳以下	1,000円
セット券	5,000円*

(ムーンライトとパミリヤの2演目券)

- ユースおよび18歳以下チケットご購入者は、公演当日、受付にて年齢が確認出来る証明書をご提示ください。
 - 未就学児入場不可。12歳以下は保護者同伴のうえ、ご来場ください。
 - 託児サービスをご利用いただけます。(要事前予約)
 - 詳細・お申込みはロームシアター京都WEBサイトにてご確認ください。
- *「ムーンライト」と「Pamilya (パミリヤ)」の2演目をご観いただけるお得なセット券。

チケット発売中

チケット取扱

- オンラインチケット [24時間購入可]
※要事前登録(無料)
<https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>
- ロームシアター京都 チケットカウンター
TEL.075-746-3201
(窓口・電話とも10:00～19:00/年中無休※臨時休館日を除く)
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため短縮営業する場合あり
- 京都コンサートホール チケットカウンター
TEL.075-711-3231
(窓口・電話とも10:00～17:00/第1・3月曜日休館※休日の場合は翌日)
- チケットぴあ
<https://t.pia.jp/>《Pコード:515-383》

構成・演出



村川拓也

演出家・映像作家。ドキュメンタリーやフィールドワークの手法を用いた作品を、映像・演劇・

美術など様々な分野で発表し、国内外の芸術祭、劇場より招聘を受ける。虚構と現実の境界に生まれる村川の作品は、表現の方法論を問い直すだけでなく、現実世界での生のリアリティとは何かを模索する。主な作品に『ツァイトゲーバー』『インディペンデント リビング』『Pamilya(パミリヤ)』『事件』など。2016年に東アジア文化交流使(文化庁)として中国・上海/北京に滞在。2022年に第21回AAF戯曲賞にて、『事件』が特別賞を受賞。

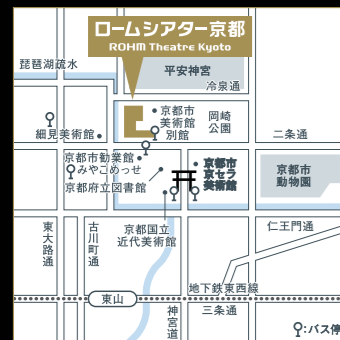
声の出演:中島昭夫 出演:荒俣麗菜 伊東沙希子 梶原香織 杉田彩智乃



村川拓也 演出「Pamilya (パミリヤ)」
2022年12月23日[金] 19:00開演 / 24日[土] 15:00開演 ロームシアター京都ノースホール
フィリピンから来日した介護士が働く介護福祉施設の日常を再現した舞台作品。

地域の課題を考えるプラットフォーム
「仕事と働くことを考える」(その2)

【ご来場にあたってのお願い】
ご来場前に、ロームシアター京都WEB サイトにて「ロームシアター京都主催事業公演実施時のご来場に際して」(新型コロナウイルス感染予防対策について)を必ずご確認ください。



会場

ロームシアター京都 サウスホール

- 〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13
TEL.075-771-6051(代表) / 075-746-3201(チケットカウンター)
FAX.075-746-3366 <https://rohmtreatrekyoto.jp/>
※営業・開館時間は状況により変更することがあります。最新情報はお問合せください。
- 京都市営地下鉄東西線「東山」駅下車1番出口より徒歩約10分
 - 市バス32・46系統「岡崎公園ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ
 - 市バス5・86系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車徒歩約5分
 - 市バス31・201・202・203・206系統「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約5分

ドラマトック:林立騎
舞台監督:浜村修司
照明:葭田野浩介(RYU)
音響:佐藤武紀
映像:城間典子
演出補佐:長澤慶太
プロデューサー:武田知也(bench)
制作:丸田鞠衣絵
宣伝美術:阿部太一(TAICHI ABE DESIGN INC.)
製作:ロームシアター京都
(初演2018年12月 京都市西文化会館ウエスタ)

お問い合わせ
ロームシアター京都チケットカウンター
TEL.075-746-3201

『公文協アートキャラバン事業 劇場へ行こう2』参加事業
文化庁 統括団体によるアートキャラバン事業(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)



ドキュメンタリーやフィールドワークの手法で作品を発表し続ける村川拓也。過ぎ去った時間を現在に立ち上がらせる本作を、主人公「不在」で異例の上演。見えない人やモノの存在を観客と共に想起する「演劇」を試みる。

2023年1月12日[木] 19:00開演

ロームシアター京都 サウスホール

主催:ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)
京都市、公益社団法人全国公立文化施設協会

ロームシアター京都
ROHM Theatre Kyoto

ピアノの音色が奏でる記憶と現在 人生と音楽が劇場で交わり、いまここだけの月光が響く

『ムーンライト』という作品は、はじめに2018年に京都でつくって上演し、2020年には東京で上演しました。2022年5月に札幌での公演が決まったのですが、その公演の準備をしていた2021年11月に主人公の中島昭夫さんが亡くなってしまいました。77歳でした。中島さんが亡くなってしまったので、札幌公演は中止にするべきかなと思いました。でも、中島さんがまだどこかにいるような気がしてならなかったのが、彼はいないけど上演することに決めました。そうして出来上がったのが、札幌公演での新しい『ムーンライト』でした。今回、この新しい作品を再び京都で上演することになりました。4年を経て、再び京都に帰ってくるような気持ちです。舞台作品は一回性の芸術だと言われますが、この作品のことを考えるとき、ひとつの作品が経験する長い時間の経過を強く感じる場合があります。本番はそのつど一回きりだけど、その裏側にはとてもいろんなことがあって、関わる人々も同じように長い時間を過ごしています。もしこの作品を何度か観ていただいている観客の方がいらっしゃるとすれば、その方にも、この作品が経験した時間の経過について、気づいてもらえるかもしれません。

先ほど、新しい『ムーンライト』、と書きましたが、「新しい」ということについて考えてしまいます。「新しい」とはどのようなことなのでしょう。ここで言っている「新しい」は、誰も気づかなかったフレッシュな真新しさのことではないような感じがします。この作品は、常に流れていく時間の経過があって、そして今、目の前にこういう瞬間がありますよ、ということをいつも教えてくれるような気がします。そのことを私は、「新しい」と言っているのだと思います。

構成・演出 村川拓也



「ムーンライト」上演歴

2018年12月 CIRCULATION KYOTO

京都市西文化会館ウエスティ

主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、京都市

2020年10月11月 FESTIVAL/TOKYO 20

東京芸術劇場 シアターイースト

主催：フェスティバル/トーキョー

2022年5月

札幌市民交流プラザ クリエイティブスタジオ

主催：札幌文化芸術劇場 hitaru(札幌市芸術文化財団)

村川との対話とピアノの発表会の形式をとった本作の主人公は、ベートーヴェンの「月光」に惹かれてピアノを始めた、70代の男性・中島昭夫。これまで2018年の初演、20年の再演時に舞台上にいた彼は、2021年秋、この世を去った。舞台にはさまざまな世代のピアノ演奏者たちが登場、彼の記憶を彩る曲が演奏される。音楽との出会い、20歳から続いた目の病とのつきあいなど、村川の質問に導かれ、中島自身によって語られる記憶の断片とそこから浮かび上がる人生。

そして、最後の一曲「月光」が奏でられる時、私たちが耳を澄まし、目を凝らした先に見えるものとは――。